様式3

令和5年度　小金井市立小金井第四小学校　自己評価まとめ

学校教育目標　　人権尊重の精神を基本として、広く国際社会に生きる人間として、心身ともに健康で生涯を通して学び続けることのできる児童の育成を目指す。

つよく　　かしこく　　あたたかく

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像 ○子供が「今日も登校してよかった」と実感できる学校　○「チーム小金井四小」の力を集結し、主体的に課題を解決していく学校　○保護者・地域が、「学校に足を運んでよかった」と思ってもらえる学校

【目指す児童像 ○心も体もたくましい子　　○よく考え実行する子　　○思いやりのある子

【目指す教師像 ○子供一人一人を大切にする教師　○その子らしさを最大限伸ばす教師　○一人一人に適切なかかわりをする教師　○全体の奉仕者である教育公務員としての自覚と使命を果たす教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】 感染症対策を講じながら、保護者、地域と連携した環境教育を推進することができた。コミュニティ・スクールを立ち上げ、地域、行政と連携した防災活動を行った。

【課題】 全国学力学習状況調査、全国体力・運動能力調査の結果を踏まえた授業改善を推進し、コロナ禍により十分にできなかった学習や体力向上を図ること。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
子どもの権利の尊重	・学期1回の教員研修において、「いじめ防止基本方針」、「小金井市子どもの権利に関する条例」を活用する。 ・教育相談は全て組織的に対応し、継続した見守り、支援を行う。	3.5	3	子どもの権利に関する条例があることを知らなと答えた児童が30%を超える。様々な学習の機会に伝えていく。また、6年生の子供オンブズパーソンによる授業、ユニセフ募金の機会を活用する。	3.5	3.1	「いじめ防止基本方針」、「小金井市子どもの権利に関する条例」を使用して教員研修を行った。小金井市オンブズパーソンによる6年生への授業は、子供の権利について関心を高める機会となった。しかし、教員及び児童の認知度は変わらなかった。今後も、子供の権利に関する条例を周知していく。
	・児童には、学期1回以上「いじめ防止・生命尊重」に関する授業を実施し、相談体制を周知する。 ・保護者には、相談窓口を学校だよりやHPで繰り返し周知していく。	3.7		学期1回のいじめ防止授業は計画的に実施している。相談窓口はHP掲載、校内掲示も行っている。繰り返し周知していく。	4	3.2	学期1回以上「いじめ防止・生命尊重」に関する授業を全学級で実施することができた。児童、保護者には、困った時の相談窓口を繰り返し案内した。しかし、相談体制についての保護者の満足度は高くないことから、個人面談の充実も含めた、相談しやすい校内体制づくりに努める。
授業変革の推進	・全教員による、「授業改善推進プラン」を具現化した授業実践を年間1回以上校内で公開し、振り返り、次に生かしていくことで、授業力向上に努める。	3.4	3.4	全国学力・学習状況調査の結果を基に、9月に授業改善推進プランを作成した。学期ごとにプランに基づいた授業改善の成果について、振り返りを行い授業力改善を図る。	3.2	3.3	全教員による授業公開を年間1回以上行うことができた。授業改善推進プランの実践を学期ごとに振り返り、学力向上に向けた改善に取り組むこともできた。今後も教員個々の授業力向上に向けた授業実践の情報共有を進める。
	・HPに、ICT機器及びデジタルコンテンツを活用した授業の様子を、学年学期1件以上掲載する。 ・毎月1回以上夕会にて、ICT機器の活用についての情報共有を進める。	3.4	2.4	ICT機器を活用した授業実践を、1学期は各学年専科で作成し、情報共有を図ることができた。ICT機器の有効活用については、担当からの毎月の研修を継続する。 児童のクロムブック活用は、学年に応じて適切に活用できるように計画的に進めていく。	3.3	3.2	ICT機器及びデジタルコンテンツを活用した報告書を学年学期1件作成し、情報共有を図ることができた。しかし、ICT機器の利活用については学級間で差がある。児童の学習場面での活用の満足度も十分とは言えない。今後も、ICT機器及びデジタルコンテンツの活用実践を重ね、有効活用していく。
地域連携の推進	・全学年で、地域の外部講師を招いた授業を年間1回以上実施する。	3.3	3.4	1学期は、外部講師を招いた授業を全学年では実施できていないが、2学期は、セーフティ教室、総合的な学習の時間でなど実施できる。キャリア教育を推進する上でも、様々な専門家を招へいした授業を展開していく。	3.1	3.4	外部講師を招聘した授業は全学年で行っているが、前年踏襲で実施している。問題解決型の学習展開や、キャリア教育の視点での授業展開を考えると十分とはいえない。地域の教育力を生かした探究的な活動が展開できるよう指導計画を見直していく。
	・ICT機器を活用して、PTA活動の効率化を図る。 ・学校運営協議会と連携して、教育活動の充実、支援者の満足度の視点で見直す。	3		スクールメール機能を活用してペーパレス化を進めている。 地域学校協働活動として、運動会の受付を地域の方か支援できたことで、PTA本部委員の負担が減ると同時に、地域の方との交流やコミュニティ・スクールへの関心を高める機会となった。	3	3	PTAをコミュニティ・スクールの組織として、ICT機器の活用や地域ボランティアによる支援等で、PTA活動の負担感を軽減ずる見直しを年間2件行うことができた。次年度は、コミュニティ・スクールのリーフレッドを作成し、コミュニティ・スクールとしての理解促進を進めていく。
特色ある学校づくり	・全担任による、道徳の授業公開を年間1回以上実施する。 ・3つの研究分科会で年間4回の授業研究を進め、授業実践に生かす。	3.6	3.2	全担任による道徳の授業公開は、2，3学期も進めていく。道徳の校内研究授業も教職員が積極的に研究協議を重ねている。児童の道徳の授業への参加については、15%の児童が自分の生活をよりよくしようと思っていない事から、自分の生活に返るような授業展開を工夫していく。	4	3.2	全担任による、道徳の授業公開を年間1回以上実施することができた。また、研究分科会による年間4回の授業研究を行い教員研修を充実させた。しかし、児童が道徳で考えたことを日常生活において十分に活かしきれていないことから、今後も振り返りを丁寧に行っていく。
	・資源ごみ分別、ゴミ削減など、児童の主体性を促す活動を継続する。 ・市役所、近隣の大学、市内企業、保護者・地域と連携した学習を継続する。	3.1	3.3	環境教育について、児童の実践はよくできている。2学期以降に委員会や学級活動の中でハチドリプロジェクトへの取り組むが具現化していく予定である。5年生の産官学連携の環境学習は、カーボンニュートラルを考える機会となった。	2.9	3.2	資源ごみの分別、給食の残りを減らす呼びかけなど、児童の主体性を促す活動を行うことができた。しかし、ハチドリプロジェクトとしての活動の広報や周知が不十分であった。昨年度に比べ教職員も児童も関心が薄れてきた。児童主体の継続して取り組める活動を行っていく。
	・週1回の朝外遊び、休み時間の外遊びを推進し、運動習慣の定着を図る。 ・長縄チャレンジ、短縄週間、持久走週間において、目標達成に向けて努力する習慣を身に付けさせる。	3.5	3.3	長縄チャレンジは、学級ごとに目標をもって取り組んでいる。今後、短縄週間、持久走週間を実施するので、引き続き体力向上の大切さを伝えて、目標達成に向けた励ましを行っていく。	3.4	3.3	本校の特色ある教育活動として、週1回の朝外遊び、休み時間の外遊びを推進し、運動習慣の定着を図ることができた。しかし、児童自身が体力向上に向けて、目標を設定して取り組むことが約2割の児童が十分にできていないことから、達成感を育む活動を行っていく。
	・行事等の運営(受付、アンケート回収)、配布物の削減に、ICT機器を活用する。 ・特色ある教育活動はホームページに週1回以上の発信する。	3.4		学校公開、運動会の受付とアンケート回収に、ICT機器を活用して効率化を図った。カラーの方が見やすい配布物等はスクールメール機能やホームページ掲載等を行い、ペーパレス化を推進していく。ホームページの更新は計画的に行っている。	3	3.4	行事等の運営や配布物の削減を進める手段として、ICT機器の活用が進んだ。特色ある教育活動はホームページに週1回以上の発信することができ、保護者から情報発信については高い評価を得た。今後は、双方向の発信を検討し、学校、保護者、地域の連携を進めていく。